

Y04b しし座流星群CGの製作と活用

毛利勝廣（名古屋市科学館）、野田学（名古屋市科学館）、鈴木雅夫（名古屋市科学館）、北原政子（名古屋市科学館）、吉川真（宇宙科学研究所）、安田孝美（名古屋大学情報文化学部）、山本晃裕（名古屋大学人間情報学研究科）

今秋、1998年11月18日、33年ぶりにしし座流星群の大出現が見られるかもしれない。多くの市民やマスコミが興味を持つこの話題に対して、科学的かつ教育的にその正しい知識を提供するため、名古屋市科学館では情報を収集し、しし座流星群の姿や流星群の成り立ちなどを科学的に再現したCGを作成した。作成したCGは1998年8月「星が落ちてくる?」、1998年10月「流星雨がみたい」のプラネタリウム2番組や市民観望会などで活用し、マスコミなどにも提供している。社会教育施設の学芸員、軌道の研究者、CGの研究者の3者が協力して教育的なCGを作る、この協力関係も1994年のSL9、1995年の土星の環の消失、1996-7年のヘール・ボップ彗星につづき4作目となる。今回はこのしし座流星群CGについて、ネットワークを活用した製作手順や現時点での完成版、活用風景などを発表する。